

「あざむ」

腰痛に苦しみ、2年あまりの間に3度の手術を経験しました。特に最後の手術前の半年間は、足腰の痛みとしびれで、杖が手放せなくなっていました。現在も通院中ですが、何とか杖を手放せるところまで回復しました。

この腰痛との「つきあい」の日々の中で気付いたことがあります。それまで私は「社会には「障害者」と「健康者」がいる」と漠然と考えていました。

ところが「健康者」として「障害者」のことを考えるという立場にいた私が、杖が手放せなくなりました。当たり前前にできていたことが、「困難になる」「できなくなる」という日常が続きました。

そんな中、私に芽生えたのが、「社会には「障害者」と「障害者になる可能性のある人」がいるんだ」という思いでした。もちろん、「身体的な困難を体験して、障害者問題を自分事として受け止めることができたら」とまで言うことはできません。私の体験した困難は一時的なもの、障害者が直面する状況とは根本的に違うものだと思っています。



毎月11日は「人権を確かめ合う日」
ご意見は人権・男女共同参画推進室 (☎ 63・7909) へ

でも、「自分にも起こりうる問題だ」と実感できたことは確かです。今なら、当事者が置かれた状況や思いに、私なりの実感を重ねつつ、思いを巡らせることができると思います。さらに、その思いを様々な人権問題にも広げることができるのではないかと感じます。自分にとっての「人権のとびら」を見つけて、人権問題全般が実感を伴って、自分の日常に近づくのではないかなと思います。大上段に振りかぶって「人権とは？」でなくても、「これから高齢者になる自分」「かつて子どもだった自分」「松葉杖生活を体験した自分」「外科医と聞いて男性が浮かんだ自分」「外国で右往左往した自分」「ネット情報に振り回された自分」「出勤前、「本日の古いコーナー」に「喜一憂する自分」などなど・・・自分の日常をちよっと違った視点から見つめることで、これまで気付かなかった「人権のとびら」が、「ここにある」「あそこにもあった」ときっと見つけられると思います。見つけた「人権のとびら」、開けてみませんか？

12/4▶10 人権週間 普段は言葉にできない気持ち。たまには伝えてみませんか？

大切な人へのメッセージ

市では、人権メッセージ「あなたの大切な人へ……140文字で綴るあなたからのファンレター～」を9・10月に募集。今年度も、思いのこもったメッセージをたくさんお寄せいただきました。ここでは、入選作品をご紹介します(原文のまま表記しています)。

☎ 人権・男女共同参画推進室 ☎ 63・7909



愛する我が子へ

生まれできてくれてありがとう。いつも叱ってばかりでごめんね。子どもたちが仲良く遊ぶ姿を見るたびに反省しているよ。いつまで抱っこして、手を繋ごうと甘えてくれるかな。賑やかで楽しい毎日をありがとう。ずっと大好きだよ。(一般)

71才のお母さんへ

病気がわかった時、大丈夫大丈夫私は大丈夫と気丈にふるまっていたね。娘である私は病院をでた後、涙がとまらなかったよ。今まで1度も涙を見せず、生きている喜びをかみしめながら、「ありがとう通院は1人でいける」と常に言う母。1人ではいかせない。絶対何があってもそばにいらね。いさせてね。(一般)

おかあちゃんへ

幼なかつたけど覚えています。貧しくてごはんが少ない時貴女は食わずに私達に食べさせてくれました。遠足の前夜古い毛布をほどこいてセーターを編んでくれました。茶碗を割ったら瀬戸物屋が喜ぶと言い、傘を忘れたら雨が降らず良かったと言ってくれた母、ありがとう。そのお陰で今の私があります。もう一度会いたい。(一般)

先生へ

私の大切な人は、中学校の時の先生です。何をするにも応援してくれたり、困った時には背中を押してくれる優しい先生です。毎日笑顔で自分の仕事に誇りを持って、誰からも信頼され、人を助けられる、そんな先生みたいな大人に、教師になりたいです。夢をくれた先生に感謝です。(高校1年生)

地域の方々へ

私が感謝したい身近な人は地域の方々です。いつも私が知らないところで地域を盛り上げるための行事を考えてくれたり、通学路を安全に歩けるように草を刈ってくれていたりします。そのおかげで私は今快適に暮らせています。普段直接感謝を伝えることが出来ないのここで感謝を伝えたいと思います。(高校1年生)